# 第２次野洲市総合計画・総合戦略
# 施策評価結果（令和３年度分）および
# 評価結果を踏まえた今後の対応

目　次

１　はじめに……２

２　施策評価の目的・主旨および工程……３

３　評価する施策の一覧……４

４　施策評価の方法……５

５　施策ごとの成果……７
　分野１　子育て・教育・人権……７
　分野２　福祉・生活……12
　分野３　産業・観光・歴史文化……18
　分野４　環境・都市計画・都市基盤整備……22
　分野５　市民活動・行財政運営……28

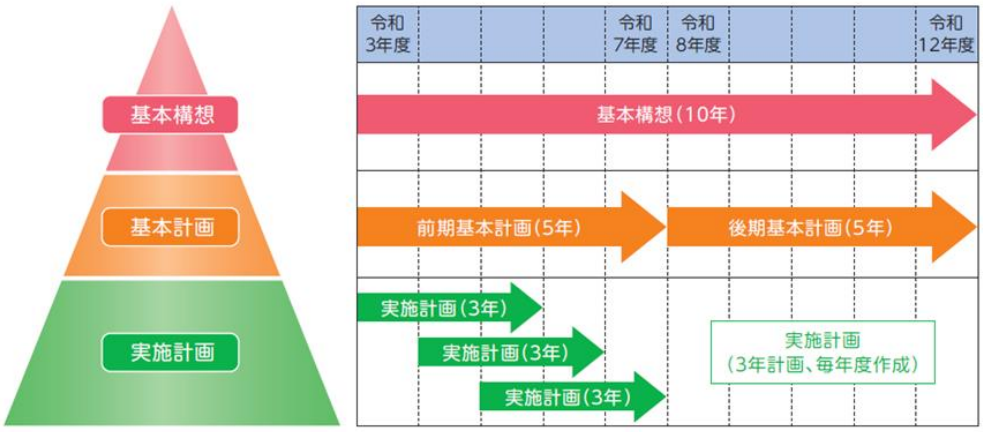
６　第２期総合戦略の進捗状況……32

７　第２期総合戦略に関する事業の評価……34

## １　はじめに

令和３（2021）年３月に策定した「第２次野洲市総合計画（以下「第２次総合計画」という。)」は、野洲市の将来都市像を示し、分野別計画など野洲市が定めるその他の計画の指針となる市の最上位計画です。第２次総合計画は、将来都市像とそれを実現するための基本方針を示す「基本構想」(計画期間 10 年)、基本構想を実現するための施策を示す「基本計画」(５年)、基本計画の施策に基づいて具体的な事業の内容や実施時期を示す「実施計画」（３年）の３つの要素で構成されています。

また第２次総合計画と同時に策定した「第２期野洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第２期総合戦略」という。)」は、人口減少克服及び地方創生に向け、第２次総合計画の取組と一体的に推進することとしており、第２次総合計画の施策・取組方針の一部を第２期総合戦略の施策として位置付けています。




そして、　第２次総合計画の進捗管理については、PDCA サイクル（Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の工程を継続的に繰り返す仕組み）を基に、事業の実施状況や指標の進捗状況について評価・検証を行い、結果に基づき改善を行うこととしています。

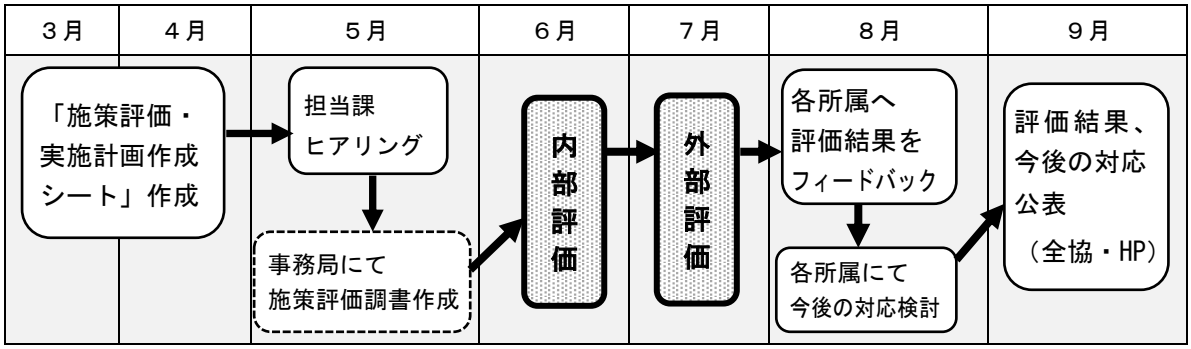
進捗管理におけるPDCAサイクルのイメージ

## ２　施策評価の目的・主旨および工程

前のページで述べた、進捗管理の Check(評価)、Action(改善)を行うため、「基本計画」の施策評価を行います。このことから、本資料は、基本計画の施策ごとに、成果指標や主要事業の進捗度などを把握し、施策目標（めざす姿）の実現に向けた取組がどの程度進んでいるかをとりまとめたものとなっています。そして、本資料を基に、「野洲市総合計画・総合戦略庁内評価委員会」による内部評価と、「野洲市総合計画・総合戦略評価委員会」による外部評価の２段階で評価を行います。

さらに、評価結果は、各施策を推進する各所属にフィードバックし、今後の取組の検討に活用するとともに、その内容を公表します。

○施策評価の工程



## ３　評価する施策の一覧

| 分野 | 施策 |
|---|---|
| １．子育て・教育・人権 | 1-1　子育て支援の充実 |
| | 1-2　青少年の健全育成 |
| | 1-3　学校教育の充実 |
| | 1-4　生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進 |
| | 1-5　人権の尊重と多文化共生社会の実現 |
| ２．福祉・生活 | 2-1　健康づくりの推進と地域医療体制の整備 |
| | 2-2　高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり |
| | 2-3　障がい児・者福祉の充実 |
| | 2-4　地域福祉の推進 |
| | 2-5　生活困窮者等への支援の充実 |
| | 2-6　消費者行政・防犯対策の充実 |
| ３．産業・観光・歴史文化 | 3-1　商工業の振興 |
| | 3-2　農林水産業の振興 |
| | 3-3　地域資源を生かした観光の振興 |
| | 3-4　歴史文化遺産の保全・活用 |
| ４．環境・都市計画・都市基盤整備 | 4-1　均衡ある土地利用の推進 |
| | 4-2　自然環境・美しい景観の保全 |
| | 4-3　生活環境の保全と上下水道サービスの安定供給 |
| | 4-4　防災・減災対策の強化 |
| | 4-5　道路ネットワークの整備と交通安全の推進 |
| | 4-6　公共交通の利便性の向上 |
| ５．市民活動・行財政運営 | 5-1　市民活動・自治会活動の推進 |
| | 5-2　市民との情報共有の推進 |
| | 5-3　効果的・効率的な行財政運営 |
| 合計　５分野 | 24施策 |

## ４　施策評価の方法

成果指標の進捗度や主要事業の進捗度等から、施策目標（めざす姿）の実現に向けた取組がきちんと進んでいるかを、内部評価、外部評価にて３段階（A～C）で評価します。なお、評価の目安となるよう、各進捗度を点数化するとともに、本資料とりまとめ時点で評価しています。（次ページの＜「５　施策ごとの成果」の見方＞参照）

### ア．成果指標の進捗度

施策ごとに設定した成果指標の進捗度を、下記の判定基準により s～c の４段階で表しています。

| 進捗度 | 判定基準 |
|---|---|
| s | 目標値達成 |
| a | 目標値を達成していないものの、向かっている |
| b | 横ばい（目標値を達成していないかつ増減率が－５％～５％内） |
| c | 目標値から遠ざかっている |

※コロナ禍の影響により適正な判定ができない指標についてはルビで示しています。（例：c（コロナ））

### イ．主要事業の進捗度

施策の取組方針に基づいて実施する主要事業の進捗度を、下記の判定基準により s～c の４段階で表しています。

| 進捗度 | 判定基準 |
|---|---|
| s | 達成、完了 |
| a | 予定通り進行 |
| b | 一部遅延 |
| c | 未着手、中止 |

※コロナ禍の影響により適正な判定ができない事業についてはルビで示しています。
※主要事業の主な取組実績については、別冊「施策ごとの主な取組実績」を参照ください。

### ウ．評価

| 評価 | 評価基準 | 点数※ |
|---|---|---|
| A | 施策目標の実現に向けた取組が着実にできている | 90 点以上 |
| B | 施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある | 60 点以上 90 点未満 |
| C | 施策目標の実現に向け、改善や手段などを検討する必要がある | 60 点未満 |

※点数＝評価の合計点／（２点×評価数）×100

（合計点は各進捗度の s、a を２点、b を１点、c を０点として算出）

＜「５　施策ごとの成果」の見方＞

## ５　施策ごとの成果

| 分野 | １．子育て・教育・人権 | 施策 | 1-1　子育て支援の充実 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | すべての家庭が安心して楽しく子育てができるよう、地域全体で協力して子育てをしています。 | | |

ア．成果指標の進捗度

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 待機児童数（学童保育所） | ０人 | ０人 | | | | | ０人 | s |
| 待機児 | | | | | | | ０人 | a |
| 児童虐 | | | | | | | 20.0% | s |

成果指標の進捗度については、s～c の４段階で表しています。

イ．主要事業の進捗度

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①子育て家庭への支援の充実 | 小学６年生までの医療費無償化の拡大 | a | 令和４年 10 月までの医療費助成拡大に向けた事務を予定通り実施した。 |
| ②安心して子育てできる環境の整備 | 就学前保育の充実と幼保一体化の推進 | a | 小規模保育事業の導入により待機児童の減少を図れた他、保育アドバイザーを配置し保育の質の向上を図った。 |
| | | | な学童保育所の管理運営による待機児童の発生はなかった。 |
| | | | 機関と連携し児童虐待の早期発対応に努めた他、各支援事業について一定の利用があった。 |

主要事業の進捗度については、s～c の４段階で表しています。

※取組実績の詳細は【別冊】p２を参照

ウ．評価

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 100 | A | | |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | | ＜評価内容＞ | ＜評価内容＞ |

内部および外部評価において、前ページの「ウ．評価」のとおり、A～C で評価します。コメントがあれば記載します。

内部および外部評価の目安となるよう、各進捗度を点数化し、本資料とりまとめ時点で評価しています。

## ５　施策ごとの成果

| 分野 | １．子育て・教育・人権 | 施策 | 1-1　子育て支援の充実 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | すべての家庭が安心して楽しく子育てができるよう、地域全体で協力して子育てをしています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 待機児童数（学童保育所） | 0 人 | 0 人 | | | | | 0 人 | s |
| 待機児童数（未就学児） | 52 人 | 40 人 | | | | | 0 人 | a |
| 児童虐待終結件数／児童虐待件数 | 17.2% | 35.6% | | | | | 20.0% | s |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①子育て家庭への支援の充実 | 小学６年生までの医療費無償化の拡大 | a | 令和４年 10 月までの医療費助成拡大に向けた事務を予定通り実施した。 |
| ②安心して子育てできる環境の整備 | 就学前保育の充実と幼保一体化の推進 | a | 小規模保育事業の導入により待機児童の減少を図れた他、保育アドバイザーを配置し保育の質の向上を図った。 |
| | 学童保育所の運営 | a | 安定的な学童保育所の管理運営により、待機児童の発生はなかった。 |
| ③児童虐待の未然防止及び早期発見・対応 | 子ども虐待防止の推進 | a | 関係機関と連携し児童虐待の早期発見・対応に努めた他、各支援事業について一定の利用があった。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 100 | A | A | A |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく A 評価とする。<br>「児童虐待終結件数／児童虐待件数」について、目標値を達成したとしても、残っている未終結の案件について評価し、終結に向けて取り組んでいただきたい。 |

| 今後の対応 | ・小学６年生までの医療費無償化の拡大については、令和４年度上半期に新たに対象となる小学生に対し受給券の交付が完了することで、拡大に係る事務は完了となる。今後は、通常業務として事業を遂行していく。（保険年金課）<br>・施策目標の実現に向けて予定通り進行しており、A 評価であるが、未就学児（保育所）の待機児童について、さらに解消を図るため、令和４年度にも小規模保育事業の事業者の公募を行い目標に向け進めていく。（こども課）<br>・児童虐待の未然防止、早期発見対応については、目標値の児童虐待終結件数にこだわらず、子どもが安心安全に過ごせるよう切れ目のない個別支援や多機関と連携・協働の取り組みを進めていく。（子育て家庭支援課・家庭児童相談室） |
|---|---|

| 分野 | １．子育て・教育・人権 | 施策 | 1-2　青少年の健全育成 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 家庭、学校、地域、関係機関が一体となった社会の中で、青少年の自主性や自立性と豊かな感性が育まれています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域子ども教室の参加人数 | 4,310 人 | 1,078 人 | | | | | 5,020 人 | コロナ c |
| 少年センターの相談件数 | 554 件 | 255 件 | | | | | 590 件 | c |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①青少年の自主性を育てる機会や場の提供 | 子どもの居場所づくりの推進 | a | 子ども教室の運営を委託し、地域の多様な世代が参画する学習活動等を提供した。 |
| ②非行の防止やひきこもり等への支援 | 青少年健全育成事業 | a | 青少年に係る各種団体と連携し街頭巡回活動等を複数回実施した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 50 | C | B | B |
| ＜評価内容＞<br>主要事業は予定通り進行したものの、コロナの影響等により成果指標は目標値から大幅に遠ざかった。施策目標の実現に向け、改善や手段などを検討する必要がある。 | | ＜評価内容＞<br>一部コロナの影響を受け判定できない部分があるものの、全体としては施策目標の実現に向けた取組ができており、さらに進める余地があるとして、B 評価が適切である。<br>また、成果指標「少年センターの相談件数」については、件数が少ない＝問題が少なかったとして、良い結果だと捉えることもできるため、成果指標の設定について再度検討すべきである。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。<br>尚、ICT 環境を整備することによりオンラインでの参加が可能となるようにするなど、新たなインフラも活用して取組を進めていけるとよい。<br>また、「少年センターの相談件数」の減少は、相談者の低年齢化が進んでいることが理由だと考えられる。 |

| 今後の対応 | ・子ども教室は、子どもたちが安心して地域で過ごせるための居場所づくりを目的としている。子どもたちは、地域の様々な異年齢の人たちとの交流や、子ども同士の集団行動による体験や経験から多くの知識を得たり、集団行動によるコミュニケーション能力の向上を図ることができる。そのためには、子ども教室に多くの子どもたちが集まることに意味がある。コロナ禍で行動制限による人と人の交流が減ってしまった現状を本来の目的である子ども教室に戻すように取り組んでいく。（生涯学習スポーツ課）<br>・「少年センターの相談件数」の減少が低年齢化によるものとは一概にいえないと考えている。高校卒業後の就労相談や無職少年への係わりも積極的に行っており、逆に年齢幅は以前より広がっている。少年センター業務の性質も年々変化しており、以前のような街頭補導中心の業務から引きこもりや不登校、家庭内暴力等の相談業務が中心となっている。青少年の健全育成のあり方が大きく変化している現状を踏まえ、時代の求めに応じた少年センターとする必要がある。（生涯学習スポーツ課） |
|---|---|

| 分野 | １．子育て・教育・人権 | 施策 | 1-3　学校教育の充実 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 家庭、学校、地域、関係機関が連携して子どもたちに充実した教育機会を提供し、すべての子どもたちが確かな学力と豊かな心と健康な体を育みながら、いきいきと学んでいます。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」児童生徒の割合 | 小6:39.6% | 24.9% | | | | | 小、中学生とも 50.0% | c |
| | 中3:14.5% | 17.9% | | | | | | a |
| 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童生徒の割合 | 小6:13.7% | 16.9% | | | | | 小、中学生とも 30.0% | a |
| | 中3:11.9% | 11.9% | | | | | | b |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①確かな学力の定着・向上 | 学力向上推進事業 | a | 一人一台の端末を整備する等 ICT 環境を整えた他、コロナ過で回数は減ったものの余熱利用施設内温水プールで水泳事業を実施できた。 |
| ②子どもと家庭に寄り添った教育相談・支援体制の充実 | 不登校やいじめ問題等に対する支援 | a | 登校できない、悩みがあるなどの小中学生に対し必要な支援を行い、登校や不安解消につなげた。 |
| ③安全・安心な教育環境の整備と働きやすい環境づくりの推進 | 小中学校施設保全事業 | a | 小中学校の施設保全に係る工事等を遅延なく実施できた。 |
| ④地域に根ざした学校づくりの推進 | 地域に開かれた学校事業 | b | コミュニティスクールの実現に向けて取り組んだものの、学校と地域の実態がかみ合わない等で円滑に進まなかった。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 75 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。また、進捗度 c の成果指標については、基準値が比較的高いことが作用していると考えられる。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。地域に開かれた学校にするためには、学校に協力する側が学校の下請ではなく協働の関係であることが必要である。 |

| 今後の対応 | ・不登校やいじめ問題等に対して、学校との連携により相談や支援を行っているが、不登校やいじめの認知件数が増加している実態を踏まえ、さらに関係機関との連携を強化し、支援を必要とする人に適切に支援が届けられるよう情報発信をしていく。（ふれあい教育相談センター）<br>・小中学校施設保全事業については、年度間の進捗などを見定めながら慎重に進める必要がある。（教育総務課）<br>・コミュニティスクールについては、令和４年度中に野洲市学校運営協議会設置規則を制定するとともに、委員に委嘱を行う。また会議を定例化し、各校の取組みや活動内容を情報共有し、効果的かつ具体的に進めていく。（学校教育課） |
|---|---|

| 分野 | １．子育て・教育・人権 | 施策 | 1-4　生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 子どもから大人までが主体的に学び、スポーツや文化芸術に親しみ、生きがいや楽しさを感じながら心身ともに健康に暮らしています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | Ｒ３ | Ｒ４ | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 主要スポーツ施設の利用者数 | 247,211 人 | 195,145 人 | | | | | 276,500 人 | コロナ C |
| 主要文化施設の利用者数 | 75,858 人 | 34,091 人 | | | | | 110,000 人 | コロナ C |
| 生涯学習出前講座の実施回数 | 84 回 | 23 回 | | | | | 90 回 | コロナ C |
| 図書館の利用者数 | 10,356 人 | 10,008 人 | | | | | 11,000 人 | b |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①生涯学習・生涯スポーツの機会の提供 | 生涯学習・生涯スポーツの充実 | a | 生涯学習の場を充実させた他、Ｒ７開催の国スポ障スポ大会の準備運営を行った。 |
| ②生涯学習・生涯スポーツ活動に対する支援 | 社会教育関係団体の支援 | a | 社会教育関係団体への活動支援により生涯学習を推進した。 |
| ③文化芸術の振興 | 文化芸術に親しむ機会の充実 | a | 様々な舞台芸術鑑賞の機会を提供した他、教室事業や成果発表の場を提供した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 50 | C | B | B |
| ＜評価内容＞<br>主要事業は予定通り進行したものの、コロナの影響等によりほとんどの成果指標が目標値から遠ざかった。施策目標の実現に向け、改善や手段などを検討する必要がある。 | | ＜評価内容＞<br>一部コロナの影響を受け判定できない部分があるものの、全体としては施策目標の実現に向けた取組ができており、さらに進める余地があるとして、B評価が適切である。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＢ評価とする。<br>資料の作りとして、生涯学習や文化芸術の機会の提供について、オンライン等を活用した、コロナ禍における新たな手法等があれば評価材料になり得るので記載すると良い。 |

| 今後の対応 | ・市民への学習機会の提供として実施している生涯楽習カレッジにおいて、コロナ禍で集合開催が困難と判断した１講座の講演を DVD に収録して配信する新たな試みを行った。オンライン等の非接触型の講座等には課題もあるため、一概に評価できないと考える。（生涯学習スポーツ課）<br>・文化芸術の振興における鑑賞の機会の提供については、会場に足を運び「生」で見聞きして感じ・味わうことが最も大切なことであると考える。また、成果発表の場も同様であると考える。コロナ禍において今後も、ガイドラインの遵守と基本的な感染対策を徹底し鑑賞の機会・発表の場の確保に努めていきたいと考えている。（生涯学習スポーツ課） |
|---|---|

| 分野 | １．子育て・教育・人権 | 施策 | 1-5　人権の尊重と多文化共生社会の実現 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 性別、年齢、国籍等にかかわらず、すべての市民がお互いの人権を尊重し、多様性を認め合い支え合いながら、ともに生活しています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人権尊重をめざす市民のつどいへの新規参加者数 | 90 人 | ― | コロナにより中止。 | | | | 180 人 | コロナ c |
| 審議会等委員の女性比率 | 36.5% | 35.2% | | | | | 40.0% | b |
| 姉妹都市交流事業への参加希望者数 | 10 人 | ― | コロナにより中止。 | | | | 20 人 | コロナ c |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①人権教育・啓発の推進と相談支援体制の充実 | 人権施策の推進 | コロナ b | あらゆる場での学習機会の提供と啓発活動の推進を図ったものの、一部コロナにより中止となった。 |
| ②男女共同参画の推進 | 男女共同参画の推進 | コロナ b | 市民団体へ活動の場や情報提供等の支援を行った。男女共同参画フォーラムがコロナにより中止となった。 |
| ③多文化共生の推進 | 多文化共生推進事業 | コロナ b | コロナにより、見込みよりも少ない通訳利用件数であった他、R4 の姉妹都市交流事業の中止を判断した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 33 | C | ― | ― |
| ＜評価内容＞<br>コロナの影響等による、主要事業の遅延や成果指標に係る事業の未実施が見受けられる。施策目標の実現に向け、改善や手段などを検討する必要がある。 | | ＜評価内容＞<br>コロナの影響を受け、ほとんどの事業が中止となっており判定ができないため、評価なしとする。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく評価なしとする。<br>尚、審議会等議論の場には多様な人がいた方が良いため、女性だけでなく若者の参画も必要である。また、資料の作りとして、事業やイベントで、ただ「中止」とするのではなく、コロナ禍を踏まえた新たな指標や取組、情報を記載した方がより現実的な評価が出来る。 |

| 今後の対応 | ・現在審議会委員の選出を各種団体に依頼する際に女性委員の積極的な登用の呼びかけは行ってきたが、若者のことについては考慮してこなかったため女性委員と同様に呼びかけを行っていく。また、令和４年度第１回人権施策審議会において令和３年度事業実績の共通課題・対策として今後も新たなウィルス[変異種]の脅威によって事業の実施か中止の判断が迫られるため、早い段階での決断と同時に全く中止にするではなく、規模を縮小したり、時期や形を変えて実施していくなどの工夫と柔軟性が必要とされていることから、今後についてはこの令和３年度事業の共通課題と対策を反映した事業を行っていく。（人権施策推進課）<br>・外国人を対象にした通訳翻訳サービスについては引き続き周知を図る他、姉妹都市交流事業についてはコロナによる中止が続いているため、コロナを踏まえた新たな交流の形を検討する。（企画調整課） |
|---|---|

| 分野 | ２．福祉・生活 | 施策 | 2-1　健康づくりの推進と地域医療体制の整備 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 誰もが自身の心と体の健康に関心を持って健康増進に取り組み、充実した地域医療体制のもと、安心して生活しています。 | | |

## ア．成果指標の進捗度

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 特定健診受診率 | 48.3% | 47.7% | | | | | 60.0% | b |
| 特定保健指導の実施率 | 29.8% | 32.1% | | | | | 35.0% | a |
| 喫煙率<br>※特定健診受診者を対象とした質問票の結果より | 男性 22.9% | 21.2% | | | | | 男性 21.1% | a |
| | 女性 4.1% | 2.9% | | | | | 女性 3.5% | s |

## イ．主要事業の進捗度

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①市民の健康づくりへの支援 | 健康づくりの推進 | コロナ b | 健康づくりや食育推進に係る啓発活動を実施した。地域医療あり方検討会はコロナの影響により一部見合わせ、書面報告となった。 |
| ②地域医療体制の整備 | 市民病院整備事業 | a | 計画の策定事務を進めたが候補地を再精査することとなった。 |
| | 病院新築整備を前提とした医療体制の充実と機器整備 | a | 現病院での診療体制が維持できるよう医師体制の確保に努めた他、必要な機器の導入を行った。 |

## ウ．評価

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 86 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。<br>「特定健診受診率」について、健康な人、特に若い人は中々健診に行こうとしないのが現状であると思う。あらゆる世代に対してヘルスプロモーションの観点からアプローチすることで達成を目指せると良い。 |

| 今後の対応 | ・「特定健診受診率」については国保被保険者への取組であるので、関係課と連携し、第３期データヘルス計画（令和６～11 年度）の策定の中で、野洲市ほほえみやす 21 健康プラン（第２次）とも連動しながらアプローチの方法を検討していく。（健康推進課）<br>・市民の求める新病院の早期整備に向け、現場の医療職の具体的なニードを十分聞取りながら、整備事業を推進する。（R4 年度：再精査した候補地における整備基本計画の策定→基本計画以降の段階に向けた契約準備、要求水準書の検討開始／R5 年度：事業者選定、基本設計／R6 年度：実施設計、準備工事／R7～８年度：建築工事→R8 年度末：移動・開院）（地域医療政策課）<br>・新病院整備の進捗を見据えながら、現病院での診療体制が維持できるよう医師確保に努め、必要な機器の導入及び更新も行っていく。（市立野洲病院） |
|---|---|

| 分野 | ２．福祉・生活 | 施策 | 2-2　高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って安心して暮らしています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| いきいき百歳体操の団体数・参加者数 | 53 団体 | 59 団体 | | | | | 65 団体 | a |
| | 1,250 人 | 1,235 人 | | | | | 1,400 人 | コロナ b |
| 小地域ふれあいサロンの数・実施回数 | 84 サロン | 82 サロン | | | | | 100 サロン | b |
| | 1,153 回 | 829 回 | | | | | 1,300 回 | コロナ c |
| 要介護３以上に対する介護老人福祉施設のベッド数の充足率 | 18.2% | 27.7% | | | | | 30.0% | a |
| 小規模多機能型居宅介護の施設数 | 1 施設 | 1 施設 | | | | | 4 施設 | b |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①健康づくり活動と社会参加の促進 | 健康づくり・介護予防の推進 | a | いきいき百歳体操の地域拡大を促進した他、介護予防にかかる知識の普及啓発を図った。 |
| ②高齢者の暮らしを地域で支えるまちづくり | 認知症高齢者を市民や地域で見守る仕組みの充実 | a | コロナによる中止もあったものの、認知症サポーター養成講座や認知症カフェを複数回開催した。 |
| ③市民ニーズに沿った介護サービスの提供と適正化の推進 | 地域密着型サービス等の適正な運営及び充実 | a | 小規模多機能型居宅介護施設の公募について、市の遊休施設を活用し、事業を実施する事業者を選定した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 72 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。<br>「小地域ふれあいサロンの数・実施回数」については、関係団体においても回数・参加者が増えるよう努力している。 |

| 今後の対応 | ・市から野洲市社会福祉協議会を通して交付しているサロン補助金について、令和４年度から、サロン回数や参加者が多いサロン、及びいきいき百歳体操に取り組むサロンへの補助金を加算する見直しを行った。各サロン団体への助言による開催支援と、周知による高齢者の参加促進を図っていく。（高齢福祉課）<br>・小規模多機能型居宅介護施設については、昨年度の公募により事業者を選定したので、令和５年４月１日の開所を目指して、今年度中に整備が行われる。市の遊休施設を活用しての整備のため、計画通りに整備ができるよう支援を行う。（介護保険課） |
|---|---|

| 分野 | ２．福祉・生活 | 施策 | 2-3　障がい者・児福祉の充実 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 障がいのある人が自分らしい日常生活や社会生活を営むための体制が整い、誰もがともに地域でいきいきと暮らしています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| グループホーム数 | 5 か所 | 7 か所 | | | | | 7 か所 | s |
| 指定特定相談支援事業者数 | 6 事業者 | 7 事業者 | | | | | 7 事業者 | s |
| 早期療育通園事業「にこにこ教室」利用児数 | 68 人 | 70 人 | | | | | 75 人 | b |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①障がい者の個別支援の充実 | 地域生活支援拠点の整備 | b | 地域生活支援拠点の整備を進めており、市内事業所に整備に向けた協力を依頼したが、整備完了には至っていない。 |
| ②障がい児の相談支援・療育の充実 | 新発達支援センターの整備 | a | センター整備に係る工事等を遅延なく実施できた。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 80 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＢ評価とする。主要事業「地域生活支援拠点の整備」については、拠点整備の前提となる人員、人材の育成、確保が本質的な問題であると思う。 |

| 今後の対応 | ・令和５年度の開設を目指して、拠点等の整備にかかるプロジェクトや市障がい者自立支援協議会による検証結果を踏まえながら、計画通りに開設ができるよう取り組みを行う。（障がい者自立支援課）<br>・新センターの整備については、着実に進めていく。（発達支援センター）<br>・早期療育通園事業「にこにこ教室」利用児数については、施設環境が整い次第、目標達成できるよう、人員体制の準備を進める。（発達支援センター）<br>・人材の育成、確保については、計画的な専門研修の受講や OJT の実践等、職員の意識向上に努めていく。（発達支援センター） |
|---|---|

| 分野 | ２．福祉・生活 | 施策 | 2-4　地域福祉の推進 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | すべての人が地域の一員として、ともに生き、ともに支え合い、安心して暮らしています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域福祉を推進する市民交流や懇談会の回数 | ― | ７回 | | | | | 年２回以上 | s |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①市民の主体的な地域福祉活動の推進 | 地域福祉推進事業（市民活動） | b | ３自治会を目標としていたが、１自治会、６小学校区にて防災の見守りマップ作成に取り組んだ。 |
| ②地域と連携した福祉活動の推進 | 地域福祉推進事業（ネットワーク） | a | 関係課と連携し、７回のタウンミーティングを開催することができた。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 83 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＢ評価とする。学校等と連携した取組の推進も期待する。 |

| 今後の対応 | ・市民の主体的な地域福祉活動の推進（見守りマップ作成）は自治会単位の取組を基本として実践しており、直近は取り組んでいただける自治会を増やすよう働きかけをおこなう。（社会福祉課）<br>・地域と連携した福祉活動の推進（タウンミーティングの開催）は市民の関心が高い防災をテーマに取組を行っているが、テーマによらず要望があれば開催を行っており、継続して本取組を続ける。また、テーマや参加者の状況に応じ社会福祉課単独ではなく、関係課（防災なら危機管理課など）や社会福祉協議会と連携して取組を行っている。過去には社会福祉協議会が、中学校と連携した取組を行ったことから、今後、小中学校で開催する際などは学校との連携も検討する。（社会福祉課） |
|---|---|

| 分野 | ２．福祉・生活 | 施策 | 2-5　生活困窮者等への支援の充実 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 生活から就労まで包括的に対応できる相談支援体制が充実し、すべての人が孤立することなく安心して生活しています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生活困窮者支援事業において支援プランを策定した数 | 314 件 | 594 件 | | | | | 400 件 | s |
| 包括的な相談窓口数 | 1 か所 | 1 か所 | | | | | 4 か所 | b |
| 「見守りネットワーク協定」協力事業者・団体数 | 41 事業者・団体 | 43 事業者・団体 | | | | | 50 事業者・団体 | b |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①包括的な相談支援体制の充実 | 生活困窮者支援事業 | a | 自立相談支援事業等を関係機関と連携し実施し、新規相談実人数は 319 人、プラン策定数は 594 件であった。 |
| | 市営住宅更新整備（市営住宅等の住まいの確保） | a | 永原第 2 団地 4 号棟解体工事の実施や、建替工事の実施設計を遅延なく実施できた。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 80 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。コロナ禍を受けて、今後新たに想定される状況を注視する必要がある。 |

| 今後の対応 | ・生活困窮者支援事業の取組みにより、様々な問題に対して、相談体制が構築できていたことで、新型コロナウイルス感染症の影響による多様な相談に適切に対応することができたことから、引き続き、体制整備の維持、効率化に努めていく。（市民生活相談課）<br>・主要事業である市営住宅更新整備事業は予定どおり進行しているが、令和 4 年度から始まる市営住宅永原第 2 団地 4 号棟新築工事を令和 5 年度に完了させ、計画通り市営住宅の住まいの確保を図る。（住宅課） |
|---|---|

| 分野 | ２．福祉・生活 | 施策 | 2-6　消費者行政・防犯対策の充実 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 犯罪や消費者被害の未然防止・拡大防止に地域や事業者等と連携して取り組み、市民が被害にあうことなく安全・安心に暮らしています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 消費生活相談窓口数 | 1 か所 | 1 か所 | | | | | 2 か所 | b |
| 犯罪発生率 | 36.4% | 31.2% | | | | | 23.2% | a |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①消費者被害の救済及び未然防止･拡大防止の充実 | 消費者行政推進事業 | a | 811 件の消費者生活相談を受け付けた他、見守りリストの作成、見守り活動、出前講座等を実施した。 |
| ②防犯対策の実施 | 地域安全センターを中心とする活動の充実 | a | 夜間に、住民参加型の防犯パトロールを 5 回、地域安全センター調整官によるパトロールを 622 回実施した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 88 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。地域安全センターのパトロールについて、パトロール中はセンターに誰もいない状態となっており、常時一人はいるようにするためにも人員、人材の確保が必要であると思われる。 |

| 今後の対応 | ・消費者生活相談は、全国的に見ても高い水準にある（令和 3 年度約 84 万件）。引き続き、周知啓発に努めていく。特に、成年年齢引下げによる消費者トラブルの増加が見込まれることから、デジタル化対応も踏まえ、情報発信の検討を行っていく。(市民生活相談課)<br>・市内では、野洲駅前での犯罪の発生が多いものの、監視カメラや地域安全センターの調整官による見回り等により、犯罪発生率の低下に貢献している状態にあり、現在の監視体制を維持するため、機器の修繕や人件費等の諸経費を継続して確保することが課題と捉え、検討していく。（危機管理課）<br>・地域安全センターの調整官の増員等による今以上の体制を築くためには、相応の経費負担が生じるが、費用対効果を考えた場合、現状維持が最も適当であると判断している。（危機管理課） |
|---|---|

| 分野 | ３．産業・観光・歴史文化 | 施策 | 3-1　商工業の振興 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 地域特性を踏まえた事業活動や創業をしやすい環境が整備され、事業者、経済団体、金融機関、市民の連携のもと、地域の商工業が活性化しています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | Ｒ３ | Ｒ４ | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 製造業付加価値額 | 921 億円 | 1,066 億円 | | | | | 1,042 億円 | s |
| 年間商品販売額 | 870 億円 | ― | 経済センサス活動調査より引用しており、毎年のデータはありません。 | | | | 990 億円 | b |
| 創業塾受講者数 | 11 人 | 12 人 | | | | | 20 人 | a |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①事業者の操業環境の整備支援 | 操業環境支援事業 | a | 事業者の先端設備導入計画の認定を行った（15 件）。なお、認定事業者は固定資産税の減免を受けられる。 |
| ②地域商業の基盤強化の支援 | 小規模事業者支援事業 | a | 商工会と協力し、経営相談や展示会への出展サポートを実施した他、野洲駅前でのイルミネーション事業やテイクアウトバル事業を実施した。 |
| ③創業支援の強化と雇用の創出 | 創業支援事業 | a | 商工会と協力し、創業塾を行った他、実際に創業した受講者３名に対し経費を支援した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 92 | A | A | A |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく評価とする。<br>新たな事業所を建設しようにも土地がないため、他で創業するという声も聞いており、事業用地が飽和状態に近づいているとすればそれへの対処も重要であると思われる。 |

| 今後の対応 | 施策目標の実現に向けて予定どおり進行しており A 評価ではあるが、特に、創業支援の強化と雇用の創出については、創業塾への受講および創業者の増加に繋がるよう、商工会と連携し、周知を行っていく。（商工観光課） |
|---|---|

| 分野 | ３．産業・観光・歴史文化 | 施策 | 3-2　農林水産業の振興 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 効率的で安定した農林水産業経営を環境にも配慮しながら推進することで、環境と経済が両立する「栄続的」な農林水産業が営まれています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | Ｒ３ | Ｒ４ | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担い手への土地利用集積率 | 75.6% | 77.1% | | | | | 80.0% | b |
| 認定農業者の法人化数 | 18 法人 | 19 法人 | | | | | 25 法人 | a |
| 「環境保全型農業直接支払交付金」取組面積 | ~~967ha~~<br>588ha | 588ha | ※交付金の対象範囲が狭まったため修正 | | | | ~~1,000ha~~<br>600ha | b |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①経営基盤の強化と担い手の確保 | 農地利用集積の促進強化 | a | 人・農地プランの実質化に向けた地域への働きかけにより農地集積を図った。 |
| ②農産物等のブランド力向上 | 農商工連携の推進及び販路の拡大支援 | a | 市内農水産物を使用したメニューを提供する「野洲まるかじりウィーク」を29 店舗で開催した。 |
| ③農地、森林、水環境の良好な保全 | 環境保全型農業の推進 | a | 「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」より、農地法面の草刈りや水路の補修などを 29 集落で実施した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 83 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＢ評価とする。集約化･大規模化が進むと環境保全型農業の作業負担が増えるジレンマをどう乗り越えるかが課題である。 |

| 今後の対応 | 施策目標の実現に向けて予定どおり進行しており、さらに目標数値にむけて施策を進めていく。（農林水産課） |
|---|---|

| 分野 | ３．産業・観光・歴史文化 | 施策 | 3-3　地域資源を生かした観光の振興 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 野洲市の地域資源の魅力が市内外に周知され、多くの人が野洲市を楽しみ、地域経済が活性化しています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | Ｒ３ | Ｒ４ | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 観光入込客数 | 1,550,100 人 | 1,088,991 人 | | | | | 1,627,500 人 | コロナ C |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①観光情報の収集・発信の充実 | 観光情報発信事業 | a | Instagram にて 135 件の観光に関する情報を発信した他、地元と協力し「平家終焉の地」としての PR に努めた。 |
| ②新たな観光資源の発見と環境整備 | 観光振興推進事業 | a | 「第 2 次野洲市観光振興指針」の策定を行った他、湖南 4 市内を巡るサイクルスタンプラリーを実施した。 |
| ③地域資源の活用促進 | 地域資源活用事業 | a | 湖南 4 市で事業者の新商品等を集めた企画展を実施した他、ふるさと納税を周知し活用を促した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 75 | B | A | A |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>成果指標についてはコロナの影響を受け判定できないものの、主要事業を鑑み、全体としては施策目標の実現に向けた取組ができていると思われる。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく A 評価とする。「観光入込客数」について、観光目的ではない人も含まれていると思われるため、野洲市の観光利用の特性や実態に即した、観光入込客数以外の指標も検討されたい。 |

| 今後の対応 | 施策目標の実現に向けて予定どおり進行しており A 評価ではあるが、特に、新たな観光資源の発見と環境整備について、「第 2 次野洲市観光振興指針」に基づき、周遊観光の充実を図る。（商工観光課） |
|---|---|

| 分野 | ３．産業・観光・歴史文化 | 施策 | 3-4　歴史文化遺産の保全・活用 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 地域の歴史文化遺産の魅力が地域で共有され、協働して保存・活用・整備に取り組んでいます。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | Ｒ３ | Ｒ４ | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国・県・市指定文化財件数 | 140 件 | 140 件 | | | | | 144 件 | b |
| 歴史民俗博物館入館者数 | 10,604 人 | 7,269 人 | | | | | 11,700 人 | コロナ c |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①歴史文化遺産の保護・継承 | 歴史文化遺産の保護・継承事業①(文化財保護課) | a | 指定文化財や史跡の保存・修理等を予定通り実施した。 |
| | 歴史文化遺産の保護・継承事業②(銅鐸博物館) | a | 資料の調査や寄贈を受け、保存・継承に努めた他、文化財の適切な保存公開に向けた工事計画を策定した。 |
| ②歴史文化遺産の魅力の発信 | 企画展等開催事業 | a | 約 2 か月企画展を実施し 1,440 名の入館者があった他、コロナにより休館しつつもテーマ展等を複数回実施した。 |
| ③他分野との連携による歴史的遺産の活用促進 | 永原御殿跡保存整備事業 | a | 本丸の公有地化、発掘調査等を実施した他、紙芝居を制作し、永原御殿を紹介した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 75 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。<br>「歴史民俗博物館入館者数」を増やすため、宣伝や、展示物の充実等が必要であると思う。また、博物館に初めて来る市民の数を増やす努力とともに、展示観覧以外の目的でも（ワーケーション等）訪問、利用を促す工夫や環境づくりが必要である。 |

| 今後の対応 | 地域の歴史や文化に関心をもっていただけるような展示テーマの選定や魅力ある展覧会・講演会の企画を進める一方、他館との積極的な連携を進めることで広報活動等の効率化を図っていく。また、弥生の森体験学習の更なる発信や研修室を活用したイベント等の開催にも取り組み、歴史民俗博物館の認知度アップに努めていく。（文化財保護課・歴史民俗博物館） |
|---|---|

| 分野 | ４．環境・都市計画・都市基盤整備 | 施策 | 4-1　均衡ある土地利用の推進 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 地域特性や市民ニーズに合わせた計画的な土地利用が図られ、豊かな自然環境と快適な都市環境が調和したまちが実現しています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 居住誘導区域内の人口密度 | 58.1 人/ha | 60.3 人/ha | | | | | 58.1 人/ha | s |
| JR 野洲駅乗降客数 | 30,626 人 | 24,546 人 | | | | | 31,000 人 | コロナ C |
| 活用した空き家数<br>※危険空家解体補助件数 | 0 戸 | 1 戸 | | | | | 5 戸 | a |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①計画的な土地利用の推進 | 市街化区域の拡大 | a | 区域区分の随時見直しについて、柔軟な対応が可能となるよう滋賀県に対して要望を行った。 |
| ②都市機能形成の推進 | 立地適正化計画の推進 | a | 道路、公園等の都市計画施設の計画的改修を進めるため、滋賀県と調整を行った。 |
| ③良好な住宅・住環境の整備 | 木造住宅耐震改修の促進 | a | 改修には至らなかったものの、診断員派遣や補強案の作成については５件の希望があり、実施した。 |
| ④未利用地の利活用促進 | 特定空家の発生予防 | a | 危険空家の所有者に対する、撤去等に係る費用補助を１件行った。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 93 | A | A | A |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＡ評価とする。主要事業「市街化区域の拡大」は、国全体の施策であることから全てのニーズに応えることは難しいが、重要なテーマである。 |

| 今後の対応 | ・市街化区域の拡大については、地権者や地域住民の意向を踏まえ、引き続き県と連携し協議を行っていく。（都市計画課）<br>・中心拠点と地域拠点における生活の安全性や利便性の維持・向上に向け、必要に応じて立地適正化計画を見直す。（都市計画課）<br>・施策目標の実現に向けて予定通りの取り組みが図れており A 評価ではあるが、引き続き木造住宅耐震改修の促進と危険な空家の発生予防について市民に周知を行い、良好な住宅・住環境の整備を図っていく。（住宅課） |
|---|---|

| 分野 | ４．環境・都市計画・都市基盤整備 | 施策 | 4-2　自然環境・美しい景観の保全 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 豊かな自然とくらしの調和を図りながら、美しい風土を守り育てるため、市民や事業者が協働して自然環境の保全や景観の保全・創出に取り組んでいます。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 違反広告物の数 | 726 件 | 601 件 | | | | | 500 件 | a |
| 市民一人あたりの都市公園面積 | 8.2 ㎡/人 | 8.2 ㎡/人 | | | | | 8.5 ㎡/人 | b |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①自然環境の保全並びに低炭素社会の形成 | 環境基本計画の推進 | a | ボランティア清掃活動に対する支援や、環境基本計画推進会議（えこっちやす）の活動支援を行った。 |
| ②景観の保全と創出 | 良好な景観の保全 | a | 野洲市景観計画の改訂に向けた手続きを進めた他、違反広告物の除却作業やパトロールを実施した。 |
| ③都市公園の整備･維持管理の充実 | みどりの基本計画の推進 | a | 公園のあり方を検討する公園再編計画の策定に向けた自治会向けアンケートの準備を進めた他、遊具の点検・修繕を行った。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 90 | A | A | A |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＡ評価とする。成果指標「市民一人あたりの都市公園面積」について、一人あたりの公園面積が増えてほしいというよりは、防災や気軽に集まれる場として、公園は身近なところにあってほしいという思いがある。 |

| 今後の対応 | ・環境基本計画の推進について、市内美化に引き続き努め、更なるボランティア清掃への支援を行い、参加数の向上を図る。また、環境基本計画推進会議（えこっち・やす）の活動支援を行い自然環境の保全にも努める。（環境課）<br>・良好な景観の保全に向け、計画的に違反広告物の除却や啓発活動を行っていく。（都市計画課）<br>・市民に親しまれる施設となるよう、公園の統廃合を含めた再配置や再生に向けた公園再編計画を作成する。（都市計画課） |
|---|---|

| 分野 | ４．環境・都市計画・都市基盤整備 | 施策 | 4-3　生活環境の保全と上下水道サービスの安定供給 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 上下水道や廃棄物処理等、市民の快適な日常生活のために必要な施設が健全に管理・運営され、市民生活の安全・安心を守っています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | Ｒ３ | Ｒ４ | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 環境基準達成率 | 100% | 100% | | | | | 100% | s |
| 市民一人あたりの年間ごみ排出量 | 273kg | 277kg | | | | | 257kg | b（コロナ） |
| 水道水の有収率 | 81.5% | 82.6% | | | | | 85.0% | b |
| 石綿セメント管更新率 | 28.4% | 28.4% | | | | | 100% | b |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①生活環境の保全 | 環境保全対策事業 | a | 水質や大気の環境測定を実施した他、パトロールによる不法投棄の早期発見、監視、回収を行った。 |
| ②循環型社会の形成 | 一般廃棄物処理施設の適正な運用 | a | クリーンセンターの運営や最終処分場の長寿命化事業を行った。 |
| | 適切な分別と３Ｒの推進 | a | 多量排出事業者へのごみの減量指導や、食品ロス削減のためフードドライブや啓発活動を実施した。 |
| ③安全で良質な水の安定的供給 | 水源地施設更新事業・管路更新耐震化事業 | a | 水源地施設や老朽管路の更新整備について、遅延なく実施できた。 |
| ④持続可能な下水道サービスの提供 | 公共下水道ストックマネジメント事業 | a | 管路施設の点検・調査業務について、遅延なく実施できた。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 83 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＢ評価とする。<br>「市民一人あたりの年間ごみ排出量」について分析し、どの種類のごみを特に減らすべきなのか等が見えると良い。また、リサイクル、アップサイクルの状況を把握してはどうか。 |

| 今後の対応 | ・環境保全対策については、環境基準の維持継続に努める。また、適切な分別と３Ｒの推進については、更なる分別の周知徹底による資源化率の向上、多量廃棄物排出事業者への減量指導（資源化努力）について働きかける。加えて、フードロス削減についての方策を検討する。（環境課）<br>・引き続きクリーンセンターの運営、最終処分場の長寿命化事業を行い、一般廃棄物処理施設の適正な運用に努めていく。（クリーンセンター）<br>・水源地施設更新事業・管路更新耐震化事業について、計画どおり進行しているが、他の地域で漏水事故の発生が頻発しており、今後は計画の前倒しでの実施が必要となっている。そのための財源の確保等について検討を行う。（上下水道課） |
|---|---|

| 分野 | ４．環境・都市計画・都市基盤整備 | 施策 | 4-4　防災・減災対策の強化 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 市民の自助・共助意識が高まり、災害時に市民・事業所・行政が一体となって対応できる体制が整備されています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | Ｒ３ | Ｒ４ | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 防火水槽設置数 | 364 基 | 364 基 | | | | | 400 基 | b |
| 災害時応援協定数 | 34 指定 | 39 指定 | | | | | 40 指定 | a |
| メール配信サービス（防災）登録者数 | 5,114 人 | 5,898 人 | | | | | 7,000 人 | a |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①防災・減災対策の整備 | 地域防災計画等の推進 | a | 野洲市防災会議を開催し、地域防災計画の修正を行った。 |
| | 雨水幹線整備事業 | a | 新たなルート案の検討に伴い、基本設計を実施した。 |
| | 河川整備の推進 | a | 滋賀県が管理する河川の治水対策について説明会等促進活動を進めた。 |
| ②総合的な防災体制・災害時応急体制の確立 | 総合防災訓練等の推進 | コロナ b | コロナにより住民を含めた大規模な防災訓練は実施せず、内部で実施した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 86 | B | A | A |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>一部コロナの影響を受け判定できない部分があるものの、全体としては施策目標の実現に向けた取組ができていると思われる。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＡ評価とする。<br>防災のメール配信サービスについて、存在を知らない人が多いのではないかと思う。周知方法を検討されたい。 |

| 今後の対応 | |
|---|---|
| | ・大規模災害などで市民の方々への重要かつ不可欠な情報については、できる限り早めの避難行動を起こしていただけるよう、防災行政無線の他、ソーシャルネットワークシステムである電子メールやライン、更には防災アプリ、ＮＨＫのデータ放送、公用車による巡回周知など、多様な媒体による周知を行っている。これらを市民の方々が積極的に活用していただくよう、各種研修会やホームページにおいてＰＲを行うとともに、防災マップの全戸配布やチラシの回覧などにより、行政側からの提案型で周知を図っているが、継続的に実施することが課題であり、検討する。（危機管理課）<br>・雨水幹線整備事業のルート変更に伴い JR 軌道と新設函渠が近接することから、施工方法の検討に当たり、JR 西日本との協議が必要不可欠となる。このことから雨水を貯留するためのポンプ施設（位置、構造、能力等）について基本設計業務を実施する。併せて函渠整備でのシールド工法や推進工法等の工事に伴う地盤変状や近接構造物に対する影響を検討するためのＦＥＭ解析業務を実施する。（道路河川課）<br>・河川整備の推進について、適宜説明会等を行うとともに、地域住民からの意見を河川管理者である滋賀県とともに伺いながら促進活動を進める。（国県事業対策室） |

| 分野 | ４．環境・都市計画・都市基盤整備 | 施策 | 4-5　道路ネットワークの整備と交通安全の推進 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 快適で安全に移動できる道路ネットワークが整備され、道路を使うだれもが交通安全を意識して行動しています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通勤時間帯における渋滞発生路線の数 | 4 路線 | 4 路線 | | | | | 0 路線 | b |
| 都市計画道路の整備率 | 82.0% | 82.0% | | | | | 92.0% | b |
| 交通事故発生件数 | 99 件 | 93 件 | | | | | 60 件 | a |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①円滑な移動を可能とする道路ネットワークの整備 | 道路整備計画の推進 | コロナ b | 市内道路整備の具体的な計画の策定に向け事務を行ったが、委託先の業務体制（テレワーク）の影響を受け R4 年度に繰越となった。 |
| | 国道・県道整備の推進 | a | 国道 8 号バイパス整備や幹線道路の整備を進めた。 |
| ②誰もが使いやすく安全な道路環境の整備 | 通学路の安全対策 | a | 市内 13 か所でガードパイプやグリーンベルト等の整備を行った。 |
| ③交通安全の意識啓発の推進 | 交通安全計画の推進 | a | 野洲市交通安全対策会議にて、第 11 次野洲市交通安全計画を策定した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 79 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。資料の作りとして、指標に関する材料や補足説明があれば記載した方が良い。 |

| 今後の対応 | |
|---|---|
| | ・国道・県道事業の計画や進捗も踏まえ、より効果的な道路ネットワーク整備に繋がる計画を策定する。また、着手中の国・県事業について、地元理解を得る調整を進める。（道路河川課）<br>・国道・県道整備の推進について、事業者とともに地元理解を得る調整を進める。（国県事業対策室）<br>・通学路の延長も長く事業費も増大するため、予算の確保および限られた予算で効果的に整備するために、野洲市通学路交通安全対策推進会議により優先順位を決めて整備を進めていく。（道路河川課）<br>・交通安全の意識啓発の推進に向けて、広報誌等による啓発活動に加え、各全国交通安全運動の期間に合わせ、滋賀県や守山警察署、交通安全協会等の関係機関と共に街頭での啓発キャンペーンや交通安全教室を実施していく。（危機管理課） |

| 分野 | ４．環境・都市計画・都市基盤整備 | 施策 | 4-6　公共交通の利便性の向上 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 利用者ニーズや地域特性に応じた持続可能な公共交通網が整備され、市民生活の基盤として安全・安心な移動手段が確保されています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | Ｒ３ | Ｒ４ | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| コミュニティバス利用者数 | 56,395 人 | 54,446 人 | | | | | 58,000 人 | コロナ b |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①公共交通の利便性の向上 | 公共交通の利便性の向上 | a | 野洲市コミュニティバスについて、乗継場所の増設等ダイヤ改正を実施した他、音声案内を開始した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 75 | B | A | A |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>成果指標についてはコロナの影響を受け判定できないものの、主要事業を鑑み、全体としては施策目標の実現に向けた取組ができていると思われる。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＡ評価とする。コミバスは今後もっと必要になり乗客数は増えるのではないかと思う。市民の移動の実態について丁寧に分析して反映させる工夫を求める。 |

| 今後の対応 | ・令和５年度に公共交通を確保・維持するための公共交通計画の策定を行う。（協働推進課）<br>・市民の移動に対しコミバスの運行維持を行う。（協働推進課） |
|---|---|

| 分野 | ５．市民活動・行財政運営 | 施策 | 5-1　市民活動・自治会活動の推進 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 地域の活性化や地域課題の解決のため、市民活動や自治会活動を通じて、市民一人ひとりが主体的に地域づくり・まちづくりに参加しています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 市民活動団体数 | 201 団体 | 205 団体 | | | | | 230 団体 | b |
| コミュニティセンター利用件数（延数） | 10,598 件 | 7,838 件 | | | | | 13,800 件 | コロナ c |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①市民活動の継続的な支援 | 市民活動団体への支援 | a | 市民活動促進補助金を７団体に交付した他、市民に対して市民活動を紹介するパネル展を実施した。 |
| ②持続可能な自治会活動への支援 | 持続可能な自治会活動への支援（コミュニティセンター） | a | コミセンぎおう大規模改修工事及びコミセンやすエレベーター更新工事について、予定通り完了した。 |
| ③多機関協働のための仕組みづくり | 重層的支援体制整備事業の取組み | a | 見守りマップの作成や中学生と高齢者の交流を図る事業、ひきこもり者の居場所づくりを図る事業等を実施した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 70 | B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組ができているが、さらに進める余地がある。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。<br>市民活動団体の中でもボランティア活動、特に福祉関連は行政のサポートが行き届いていない分野を担っていると言っても過言ではないと思うが、どの団体も、後継者不足と高齢化が課題である。 |

| 今後の対応 | |
|---|---|
| | ・市民活動促進補助金を現在の初期支援型だけでなく、既存の団体に対しても補助できるように拡充を図り、市民活動の活性化と団体の強化に繋げたい。(市民サービスセンター)<br>・地域の活動拠点の施設であるコミュニティセンターを快適に利用するため計画的な施設改修を行う。(協働推進課)<br>・令和５年度早々に改修工事を発注出来るよう令和 4 年度末までに「コミュニティセンターみかみ実施設計業務」を完了したい。(協働推進課)<br>・重層的支援体制整備事業については、令和４年度より本格実施している事業であることから、更なる包括的な相談の拠点づくり及び協働による地域づくりを推進していく。（市民生活相談課） |

| 分野 | ５．市民活動・行財政運営 | 施策 | 5-2　市民との情報共有の推進 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 多様な手段により市政に関する情報を市民と共有し、広く市民がまちづくりに参加しています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | R３ | R４ | R５ | R６ | R７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 広聴制度利用件数 | 134 件 | 162 件 | | | | | 200 件 | a |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①多様な手段を用いた広報・広聴活動の充実 | SNS 等を活用した広報事業 | a | 令和４年度からの LINE での情報発信に向け、準備を行った。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 100 | A | A | A |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じくＡ評価とする。「広聴制度利用件数」について、意見は受け取ったことだけでなく、応答したことが重要であると思われる。 |

| 今後の対応 | ・LINE を活用した情報発信事業は目標のとおり令和４年度から取組を行っており、今後は、事業の推進を図るとともに利用者の拡充を図っていく。（広報秘書課）<br>・広聴制度として取組を行っている「市長への手紙」については、受付から２週間以内を目標に投稿者へ回答するよう努めているが、複数課に係る内容や、所管課の繁忙期、勤務状況など諸事情により回答が遅れることが課題であるため対応を検討する。（広報秘書課） |
|---|---|

| 分野 | ５．市民活動・行財政運営 | 施策 | 5-3　効果的・効率的な行財政運営 |
|---|---|---|---|
| めざす姿 | 職員一人ひとりが広い視野と経営的な視点を持ち、効果的・効率的で持続可能な行財政運営を行っています。 | | |

**ア．成果指標の進捗度**

| 指標名 | 基準値 | Ｒ３ | Ｒ４ | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ | 目標値 | 進捗度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経常収支比率 | 93.3% | 93.5% | | | | | 94.0%以下 | s |
| 電子化した行政手続き数 | 7 件 | 55 件 | | | | | 50 件 | s |

**イ．主要事業の進捗度**

| 取組方針 | 主要事業名 | 進捗度 | 進捗の概要 |
|---|---|---|---|
| ①計画的で効率的な行財政運営 | ふるさと納税の活用 | a | 制度を開始し、目標金額 1,500 万円に対し約 6 億 2 千万円の寄附が集まった。 |
| | 持続可能な行財政の運営の実現に向けた行財政改革の推進 | a | 行財政改革推進プランを策定した他、取組について提案を募り、その内容をプランに反映した。 |
| | 債権管理条例の適正運用による市税等の確保 | a | 市債権の整理や、各債権所管課への知識や手法等の伝達、移管を受けた債権の調査等を行った。 |
| ②広い視野と経営的視点を持った職員の育成 | 職員研修の充実及び職員提案制度の活用 | コロナ b | 人権研修等研修(一部コロナにより中止)を実施した他、職員提案制度を活用した職員からの提案を受けた。 |
| ③先端技術の導入と電子化の推進 | 先端技術の導入と電子化の推進 | a | 48 手続きにおいて電子申請を導入した他、ペーパレス会議を運用した。 |

**ウ．評価**

| 点数 | とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|---|
| 93 | A | A | A |
| ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | | ＜評価内容＞<br>施策目標の実現に向けた取組が着実にできている。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく A 評価とする。<br>職員研修について、オンラインによる研修の配信や企業とタイアップした研修コンテンツの開発等を期待する。 |

| 今後の対応 | |
|---|---|
| | ・ふるさと納税の返礼品の登録数について、更なる寄附の拡大に向けて、説明会の開催や、商工会・工業会や商工観光課、農林水産課と連携し、本市の魅力溢れる返礼品を充実させるとともに、地場産品の振興を図る。(協働推進課)<br>・行財政改革推進プランの各取組について、進捗管理を行い、目標を達成できるよう進めていく。(行財政改革推進室)<br>・今後も市税以外の市債権について、各債権所管課とヒアリングを行い、知識や手法等の伝達を継続する。また、市税確保に向け、未納者への早期対応を可能な限り行うとともに滞納整理基準に基づく対応をしていく。（納税推進課）<br>・コロナ感染症による中止や延期が相次いだが、徹底した感染対策を実施したうえで研修を行うと共に、リモートで実施する等新た手段で研修を行いたい。(人事課)<br>・市民の利便性向上と職員作業効率化のため、更なる行政手続きのオンライン化を進める。(情報システム課)<br>・オンライン化関連システムや RPA など職員作業の効率化につながるツールの導入を進める。(情報システム課) |

## ６　第２期総合戦略の進捗状況

第２期総合戦略は、まち・ひと・しごと創生に関する施策を定めた計画であり、人口減少克服及び地方創生に向けた取組を推進するもので、総合計画の施策・取組方針の一部を充てています。

このことから、重要行政評価指標（KPI）の実績は「５　施策ごとの成果」より転記しており、総合戦略は総合計画と一体であるため、総合計画の施策評価をもって総合戦略の評価とし、本資料においては進捗状況の一覧の掲載に留めます。

### 基本目標１　稼げるまちをつくるとともに、安心して働けるようにする

| 数値目標 | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昼夜間人口比率 | 99.2% | — | | | | | 100% |

国勢調査より引用しており、毎年のデータはありません。

#### １－１　稼ぐまちの実現

| 重要業績評価指標(KPI) | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 製造業付加価値額 | 921 億円 | 1,066 億円 | | | | | 1,042 億円 |
| 年間商品販売額 | 870 億円 | — | | | | | 990 億円 |
| 担い手への土地利用集積率 | 75.6% | 77.1% | | | | | 80.0% |

経済センサス活動調査より引用しており、毎年のデータはありません。

#### １－２　安心して働ける環境の実現

| 重要業績評価指標(KPI) | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 創業塾受講者数 | 11 人 | 12 人 | | | | | 20 人 |

### 基本目標２　新しいひとの流れをつくる

| 数値目標 | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 転入者数／転出者数 | 106.3% | 88.1% | | | | | 100%以上 |

#### ２―１　移住・定着の推進

| 重要業績評価指標(KPI) | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活用した空き家数 | 0 戸 | 1 戸 | | | | | 5 戸 |

#### ２―２　新しいつながりの創出

| 重要業績評価指標(KPI) | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 観光入込客数 | 1,550,100 人 | 1,088,991 人 | | | | | 1,627,500 人 |

## 基本目標３　子育ての希望をかなえる

| 数値目標 | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合計特殊出生率 | 1.67 | 1.66(R2) | | | | | 1.80 |

### ３―１　子育てしやすい環境の整備

| 重要業績評価指標(KPI) | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 待機児童数(学童保育所) | 0 人 | 0 人 | | | | | 0 人 |
| 待機児童数（未就学児） | 52 人 | 40 人 | | | | | 0 人 |

## 基本目標４　ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる

| 数値目標 | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 野洲に住み続けたい人の割合 | 69.7% | ― | | | | | 80.0% |

市民意向調査より引用しており、毎年のデータはありません。

### ４―１　活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保

| 重要業績評価指標(KPI) | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 主要スポーツ施設の利用者数 | 247,211 人 | 195,145 人 | | | | | 276,500 人 |
| 居住誘導区域内の人口密度 | 58.1 人／ha | 60.3 人／ha | | | | | 58.1 人／ha |
| 災害時応援協定数 | 34 指定 | 39 指定 | | | | | 40 指定 |
| コミュニティバス利用者数 | 56,395 人 | 54,446 人 | | | | | 58,000 人 |

## ７　第２期総合戦略に関する事業の評価

### １．地方創生推進交付金事業について

本市では、第２期総合戦略に基づく交付金事業として、国の交付金である地方創生推進交付金を活用し、「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」事業に取り組んでいます。

この事業の達成状況について、毎年度第三者の意見を求め、評価・検証するよう努めることとされていることから、当評価委員会で意見を求め、評価検証を行います。

| | |
|---|---|
| 事業の名称 | 健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト（広域連携） |
| 事業の概要 | 「ビワイチ」を健康でエコなニューツーリズムとしてブラッシュアップするとともに、サイクリングに興味のない方も含めた幅広い年代・様々な層に訴求できるサイクリングを、県内の観光資源や公共交通などと組み合わせて展開し、ツアーガイドを中心とした民間事業者を担い手として、県内全域での経済効果につなげていく事業です。 |
| 実施内容 | 令和３年度の実績はありません。 |
| 事業費 | ０千円 |
| 今後の方針 | 令和４年度は、「ヤスイチ」マップの更新を通じた自転車利用時の野洲市内のおすすめ立ち寄りスポットの積極的な情報発信等により、健康でエコなマイクロツーリズムの推進、内陸部への誘客につなげます。 |
| 総合戦略における基本目標 | 基本目標２　新しいひとの流れをつくる |

〇評価指標

| 重要業績評価指標(KPI) | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 観光入込客数 | 1,550,100 人 | 1,088,991 人 | | | | | 1,627,500 人 |

| とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|
| ― | ― | ― |
| ＜評価内容＞<br>令和３年度については取組実績がなく、評価ができない。 | ＜評価内容＞<br>令和３年度については取組実績がなく、評価ができない。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく評価なしとする。<br>内陸部に呼び込む今後の方針は良いと思う。指標については、ビワイチに関連した現実的な指標を用いた方が良い。自転車で来た人をカウントできる仕組みやスポットを設けてはどうか。 |

（評価は、地方創生に「非常に効果的であった」…A、「概ね効果があった」…B、「効果がなかった」…C から選択）

| | |
|---|---|
| 今後の対応 | 「第２次野洲市観光振興指針」に基づき、「ヤスイチ」マップを更新し、自転車利用時の野洲市内のおすすめ立ち寄りスポットの積極的な情報発信等を行うとともに、健康でエコなマイクロツーリズムの推進や誘客に繋げる。 |

## ２．企業版ふるさと納税について

本市では、地方創生応援税制である企業版ふるさと納税を活用し、第２期総合戦略を基に作成した地域再生計画に基づく事業（野洲市まち・ひと・しごと創生推進事業）に対して企業から寄附を募っています。

この事業の評価方法は、第三者が参画する体制で評価することとされているため、当評価委員会で意見を求め、評価検証を行います。

<table>
<tr><td>寄附実績</td><td>
<table>
<tr><th>法人名</th><th>寄附額</th><th>受領日</th><th>寄附事業</th></tr>
<tr><td>日本発条株式会社</td><td>1,000 千円</td><td>令和４年３月 31 日</td><td>ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる事業</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>寄附活用事業</td><td>
<table>
<tr><td>事業の名称</td><td>コミュニティバス運行費</td></tr>
<tr><td>事業の概要</td><td>公共交通機関の一つであるコミュニティバスについて、今後想定される少子高齢化に備え、市民の一層の利便性を確保するために乗継場所を現行の５箇所から８箇所に増やすとともに、音声案内を開始し、利便性の向上を図りました。</td></tr>
<tr><td>事業費</td><td>76,529 千円</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>取組状況及び今後の方針</td><td>令和３年度は、地域再生計画の認定を受け、令和３年 11 月より、寄附の受付等企業版ふるさと納税に係る取組を開始しました。HP や市内立地企業への訪問等により周知を行い、市内に工場がある１社から寄附をいただくことができました。<br>令和４年度は、寄附を募集する事業の絞り込みや周知方法等を検討し一層の制度活用を推進します。</td></tr>
</table>

○評価指標（寄附活用事業に関連する指標のみ）

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | R3 | R4 | R5 | R6 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| コミュニティバス利用者数 | 56,395 人 | 54,446 人 | | | | 57,700 人 |

※基準値は R1 の数字。R2 の実績は 45,180 人

| とりまとめ時点の評価 | 内部評価 | 外部評価 |
|---|---|---|
| B | B | B |
| ＜評価内容＞<br>指標については、基準値に満たないものの、令和２年度からは大幅に増加しており、概ね効果があったと思われる。 | ＜評価内容＞<br>指標については、基準値に満たないものの、令和２年度からは大幅に増加しており、概ね効果があったと思われる。 | ＜評価内容＞<br>内部評価と同じく B 評価とする。<br>指標の達成に向け、さらなる寄附を募ることができるよう努められたい。 |

（評価は、地方創生に「非常に効果的であった」…A、「概ね効果があった」…B、「効果がなかった」…C から選択）

| | |
|---|---|
| 今後の対応 | さらに寄附を募ることができるよう、引き続き寄附を募集する事業の絞り込みや周知方法を検討する。 |